

面接時の言葉の量と描画内容・物語の変遷に関する研究： MSSMを用いた一症例から

増 澤 菜 生*・大 浦 容 子*

Naio MASUZAWA & Yoko OURA

I 問題と目的

心理療法において、治療者（以下、Th）—患者（以下、Cl）の相互交流の「何」が治療的に作用するのであろうか。治療におけるスキュグル、MSSM（相互スキュグル物語作成法）のやり取りの過程にその要素が視覚的に見出されうるだろうか。

村瀬（1990）は「交互なぐり描きが鮮やかな治療効果をもたらすことは、結果として例示されてきたが、なぐり描きが行われているその瞬間、その過程については明確に取り上げ論じられていないように思われる」と述べている。そして Winnicott（1971）のこぼしを引いて、Thに望まれる条件として「自分自身の同一性を失わずに、相手に同一化する能力を確実に持っていること、言い換えると、患者の葛藤を受け入れ、治療法を必死に外に求める代わりに患者のなかで、それらの葛藤が解決するのを待ってあげられる能力をもっていること、さらに患者の挑発に乗って仕返しをすることがないなどです」と述べている。このような関わりを築いていくためには、どのような要素に気を配ればよいのだろうか。

松本（1997）は「人と話せないと訴える不登校の少年とのスキュグル」の描線の長さや色彩数・描画内容数、描画内容についてロールシャッハ・テストの内容分類に準じた分類を試み、面接の中期から後期にかけてFM（人間運動反応）が増加し、同時に面接場面で自ら語るようになり、一人で通学できるようになったこととの関連を考察した。そしてスキュグルを介した治療が前言語的2者関係から3者関係の場に至る基盤を支えたとし、最終回のスキュグルに「指さしの男子」が認められたことに着目し、「物」を介した三項関係の成立が言葉を介した対人関係への橋渡しとなっていることを示唆した。

中植（2007）はスキュグルの描線の提示段階と投影し描画する段階について、各表現の特徴と変化を発達的な視点で捉え、スキュグル表現の発達指標の作成の可能性と臨床的有用性を検討し、この指標から子どもの関係性の発達の程度や人への関わりの際に用いる手段を把握しようと論じた。

また山崎（2008）は、ある事例においてThとClが違う描線から同じ投影を行ったことに着目し、「描線を見る」という体験に焦点を当て、「描線に見えた形」に加え「描線を見たときの感じや気持ち」など、そのときの体験過程も含めて被験者に問う数量的研究を行った。被験者が作成した描画についてロ・テストの形式分析およびスキュグル感受性法（中井 1998）をもとに分析し、描線の重要性を指摘すると共に、描線という文脈だけでは読み解けない投影を見出し、面接という場・時間の持つ要素を示唆している。

以上のように、近年、様々な視点からスキュグルの描線・描画について分析がなされているが、治療的要因を示唆する明らかな指標はまだ見つかっていない。そこで本研究では、ThとClの間に起きた変化としてスキュグル上の変化と現実的变化を視覚的・量的に表し、その関係について論じることから、治療的要因を

探ることを目的とする。そのため本稿では、不登校を呈して来談し、当初言葉が殆ど出なかった思春期女子に対してスキグルの変法であるMSSMという描画療法を用いた治療過程を提示し、MSSMの描画内容に現れた変化と面接時の言葉の量および現実適応との関連に着目して分析を行った。

ここでMSSMとは Mutual Scribble Story Making Method のことであり、山中が1984年に発表した描画法である。これは、ナウムブルグのスクリブルやウィニコットのスキグルを更に発展させ、遊びの要素と、物語造りの要素を統合した方法である。MSSMの施行方法は、「通常八つ切りないしはA4版の画用紙1枚に、まずクライアントに、約6～8コマに仕切って『マンガの枠どりのように』コマどりしてもらい、じゃんけんで順番を決め、互いにぐるぐる描きをしては交換して、先の『みつけ遊び』を繰り返し、おおよそ2～4往復の相互ぐるぐる描き投影をし合ったあと、これに彩色して、双方から投影された、概ね6～8個の『みつけ出されたもの』すべて入れ込んで、物語を作ってもらおうのである」(山中 1984)。

MSSMにはサーブ・レシーブ・サーブ・レシーブ・・・とThとClが交互に描線(なぐりがき線)を出し、相手はそこへの投影を描く、というスキグル・ゲームの要素があり、さらにそこに、それらを統合して物語を作るというMSSM特有の要素が加わっている。スキグルの変法であるMSSMのみを取り上げた数量的研究は見当たらないが、MSSMの治療的要因について老松(1993)が症例報告を通して本法のもつ「交互性・なぐりがき性・物語性」について言及している。特になぐりがき性について「象徴的次元において転移や逆転移を含めた問題を抜いうる可能性がある」ことを、物語性について「異物を自らの物語の中に統合する」機能を持つことを指摘している。

本稿ではMSSM上に視覚的に認められる変化一描き足しの有無、Thのサーブに対するClの描画内容とClのサーブに対するThの描画内容(ロ・テストの内容分類によるカテゴリー)の一致率、物語のテーマの変化、これらと面接時の言葉の量および現実適応の改善との対応を分析し、治療促進的要因について検討した。

II 事例の提示

クライアント(以下、Cl): 中1女子

主訴: 男子に苛められてから不登校になった。

家族歴: 母方祖父・母方祖母は口うるさい。父は婿養子で公務員。母は保育士、声が大きくうるさい。兄は20歳、会社員。姉は19歳、大学生。

来談までの経過: 母が働いていたので、赤ん坊のときより近所に預けられた。小学校低学年では友達が多かったが、「他児にしきられる方」であったと言う。母方祖父母と同居のため、小3で隣市に引っ越した。友達もでき、活発であったが、小6終わり頃に「お金を使いすぎだ」と祖母に叱られてからおとなしくなった。その頃、初潮を迎えた。中1の1学期半ばから男子に悪口を言われたり、提出物を隠されたりするようになった。学校は何とか頑張っていたが、夏休みの終わりには感電死するつもりであったという。夏休み後、学校に行こうとしても行けなくなり昼夜逆転するようになったため、X年9月16日A病院精神科児童外来を初診した。

III 面接過程

X年9/16からX+4年4/3まで60回の治療面接を行った。#7までは3週間に1回、それ以後は終盤まで2週間に1回、本人と40分、母が来院した回(#3,4,14,16,18,23,29,31,33,36,41,45,49,53,56)は、母と20分施行した。なお#54,55,57-60は母のみ来院した。箱庭は4回、MSSMは26回、自由描画を5回行った。経過は5期に分けて叙述する。Clの発言を「 」, セラピスト(以下、Th)の発言を< >で記す。また1回目のThのサーブに対してClの描いた描画をC1とし、次にClのサーブに対してThの描いた描画をT1、2回目のThのサーブに対してClの描いた描画をT1、2回目のClのサーブに対してThの描いた描画をT2、最後、Thのサーブに対してClの描いた描画をC2とした。写真には面接回数を「#数字」で、MSSMの番号を「M数字」として表した。

第1期：#1(X年9月)～#7(X+1年2月) (箱庭1,2, MSSM1,2) 導入期

#1最初、本人から、次に父母とインテークを行う。幻覚妄想や抑うつ症状、強迫症状も見られない。夜の寝付きが悪く、無口であることは両親から聴取できた。Clは淡泊な顔立ちで無表情、ダッフルコートのポケットに手を入れ、身を固くしていた。何を聞かれても、言葉が出ない。書いた方が表出しやすいかもしれないと考え、SCTと親子関係テストを渡した。#2では「家では3歳の従兄弟と遊んだりするが、退屈。魚と犬がいるが、魚はかなり死んでしまったので新しいのを入れたい」と語った。SCTでは5つの項目を除いて空欄であり、「私のほしいものは靴とウォークマン。嬉しいのは欲しい物を買ってもらったとき。私が嫌なのは仲間外れ」との記載があった。親子関係テストでは子供から見て「両親は悪いところばかり見る。禁止が多くうるさい。子供に相談しないで決める」傾向があり、両親から見て両親自身は「欠点ばかり目に付き、干渉する」傾向があった。箱庭1を作成。「森の中に教会があって、動物や人が沢山いる。動物が食べ物を食べている。人は動物を可愛がったり守ったりしている」と説明した。母面接では「言葉では何も言わない」とのこと。#3は母のみ来院。#4でClから「箱庭で何がわかるのか」と聞かれたため、Thは「動物がご飯をしっかりと食べたいと思っていて、それを人間が守ってやりたいと思っているんだなと感じた。あれを見て心の中が見通せるわけではないけど、作っているうちに心の整理になったり、元気になったりする」と伝えた。Clは「そのうち子犬を育てたい。今はパンとか、育てる素を作っているところ」と語った。#5箱庭2では「森の中でライオンと白熊が闘っている」と説明した。Thは『守られる中で栄養を取り入れ、攻撃性(リビドー)を表出していく必要がある。いわゆる言語ではあまり表出できないようなので、非言語的媒体を用いていく。一方的に「見られる」ことに抵抗もあるので、より対話的な方法を選びたい』と考えた。

#6ではコートも脱がず、「箱庭もしたくないし話もない」と言うため、MSSMに誘った。MSSM1ではCl: Th→Cl「鳥」、T1: Cl→Th「ハート型の風船」、C2: Th→Cl (Thの出した曲線のサーブを斜線で消して)「ワニ」、T2: Cl→Th「カバ」、C3: Th→Cl (Thのサーブを使って)「外人の横顔」、を描いた。そしてClはThの絵は使用せずに物語を作成した。物語【ある所にきれいな鳥がいました。とてもきれいなので皆、欲しがりました。けど誰にもつかまいません。ある日、一人の外人がその鳥をつかまえました。けど、その鳥はワニになってどこかへ行ってしまいました】Thが「Cさんも掴みたいのに掴めないものがあるのかな?」と聞くと無表情で「別に」と答えた。そのほか、会話はほとんど「別に」「とくにない」等の応答のみであった。#7でClは夢1「登校拒否をしていて、学校にやっとの思いで行ったら、給食で皆の視線が嫌な感じで、給食を食べようとしても食べられなかった」夢を報告し、さらに「クラブで仕切り屋に無視されて悲しかったこと」を話した。MSSM2ではCl: Th→Cl (Thの出した曲線のサーブの一部を斜線で消して)「うさぎ」、T1: Cl→Th「白鳥」、C2: Th→Cl (Thの出した曲線のサーブの一部を使って)「木」、T2: Cl→Th「お餅」、C3: Th→Cl「潜水艦にのる猫」、を描いた。描き終わってから「ちょっと描いていいですか?」と聞き、Thの投影したお餅のそばに「ぶくー」と言葉を書き入れた。物語は【ふくらんだお餅は犬と猫に食べられたので、ウサギと白鳥はリンゴを食べた】。この回、Thは全く同質ではないが、前回より添え木的なサーブ・レシーブを心がけ、ClはClではThの描線を無視していたものの、C2ではThの描線を受け容れ、最後にはThの領域に侵入して字を描き入れた。(以下、Th→Cl, Cl→Thの表記は略す)

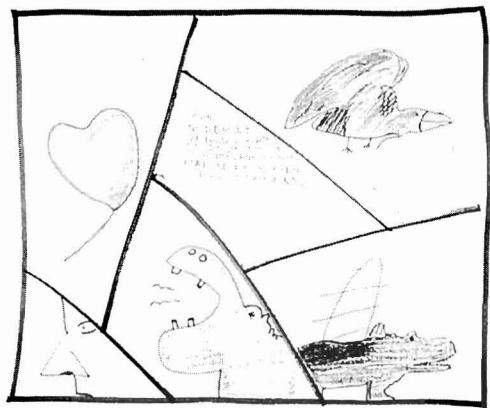


写真1 #6 M1

第2期：#8(X+1年2月)～#17(6月) (箱庭3, MSSM3～11) 描画上の応答の同質度が高い時期

#8 Clは「熱帯魚やレモンの木など植物を育てている。普段の夕食は両親が共稼ぎなので祖母が作ったものを居間で一人で食べるが、あまり美味しくない。お母さんのような仕事は忙しそうで絶対したくない」と

述べた。MSSM3ではC1：花，T1：キノコ，C2：人，T2：家，C3：山と川。描き終わってからClは人のそばに犬を描き入れ，自分の投影した花とThの投影したキノコのそばに人と犬を描き入れた。物語は【ある小さな村に家があった。その家には人と犬が仲良く棲んでいた。宝物の地図を持っていたので犬と行くことにしました。山を登って大きなきのこを越えて，そしてとても美しい花を見つけました】というものであった。Thが「女の子は裸ね」というと，「服は一応着ているけど，面倒くさくて描かなかった」と照れくさそうに答えた。#9のMSSM4ではC1：オタマジャクシ，T1：（同質のものとして）カエル，C2：（Thのサーブを殆ど使わず）魚とオタマジャクシ，T2：海の中の家，C3：（Thのサーブを殆ど使わず）笑顔のカエルたち，を描いた。描き終わってから，「ちょっと描き足していいですか？」と聞き，Thの投影したマス目にもオタマジャクシを描き入れた。物語は『ある池に大きなオタマジャクシと小さなオタマジャクシがいました。オタマジャクシは，本当にカエルになれるかな，といつも心配していました。魚に聞いてみると，湖に行ってみたら？と言うので皆は行ってみました。その間に皆はカエルになりました』というものであった。Thのサーブは無視したが，絵はマス目を超えて浸透していた。尚，この回の後から，ClはThのサーブをすべて使用するようになった。

#10「闘う女性が出てくる映画を見ている」 MSSM5ではC1：猫がハエを叩いているところ，T1：猫のたくましい手，C2：猫と楽譜，T2：猫と山，C3：猫と神様，を描いた。物語は『にゃー，神様オネガイデス！ご飯の取り方をオシエテ』。すると神様は猫に食べ物が上手く取れるようにしてあげました。そして猫は毎日神様への歌を歌っています』。今回もThはClに出来るだけ添うレシーブを心がけた。Clは描き終わった後から，Thの領域に『T1の猫の手に「ムクムク，きんにく」という言葉を，T2の山の手前に神様の後ろ姿と神様の姿に驚く猫を』かなり大胆に描き足した。#11のMSSM6ではC1：白鳥とヒヨコ，T1：飛ぶ白鳥，C2：白鳥を偲ぶヒヨコ，T2：5個の，卵と卵から出ようとするヒヨコ，C3：バサバサとぶニワトリとそれを見るヒヨコ，を描いた。そしてThが投影したT1に飛ぶ鳥を5羽追加し，T2にヒヨコを覗き込むニワトリの顔を描き足し，『ある小屋に5匹のヒヨコが生まれました。5匹は，ニワトリよりも白鳥になりたい，ニワトリなんかにならない！』とっていました。けれど5匹は飛ぶこともできません。5匹は毎日飛ぶ練習をしました。だけど3年後にはニワトリになってしまいました。けれど5匹は飛べるようになりました。5匹は今日もどこかで飛んでいることでしょう』という物語を書いた。#12では，「花の世話をするのは，自分とおじいちゃんであり，家族は皆，それぞれ自室にいて顔を合わせない」と語った。Thはしばらく来ていなかった母親の来院をお願いした。今回作成した箱庭3は，真ん中上下に川，下方に赤い橋がかかる。左下の教会の側にマリア像，キリスト像，椅子にすわるおじいさん，看護婦さん，少女などが置かれ，左上の建物の側にもマリア像が置かれた。右岸から左方へ3頭のゾウが移動しており，それを撃とうとしている男たち。ゾウを守ろうとしている男，ゾウに手を振っている犬を連れた少女。右岸には木を植える男，木を切る男，ライオンの親子4頭，ブタが置かれ，森の中にもライオンが潜んでいる。Clはこの箱庭の題を「自然破壊」と言った。

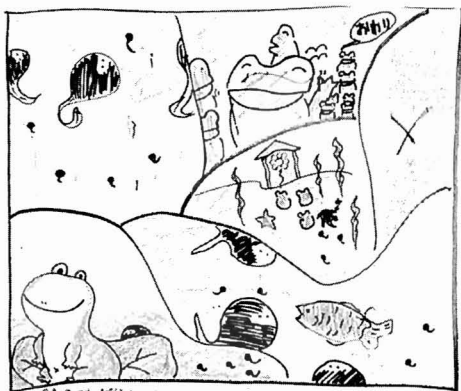


写真2 #9 M4

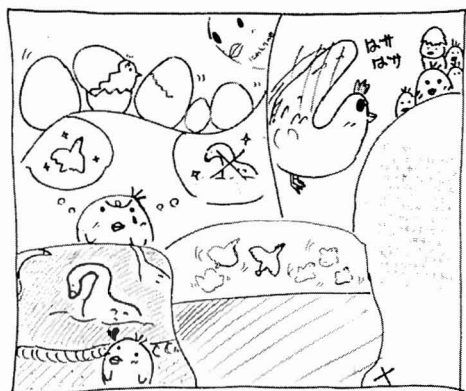


写真3 #11 M6

#13では「小鳥を飼う。前は母に来てもらいたくなかったが、1ヶ月に1回くらいなら母に来院してもらってもいい」と語った。MSSM7ではC1: 金魚鉢に入った金魚, T1: 帽子に入った金魚, C2: 杭にとまる鳥, T2: 泳ぐ金魚, C3: 金魚と外人の後ろ姿, を描いた。あとからT1に山, 川, 湖を描き足した。物語は『金魚がいました。金魚は美しい鳥になりたいと思い, 帽子に水をいれて, いろいろなところへ行き, 3年後には外国にいました。それでも金魚は聞きました。鳥になるにはどうしたらなれる?と。だけど一人の外国人に広い池に閉じこめられてしまいました。だけど金魚は一生鳥になることは出来ませんでした』というものであった。Thが「金魚は何かとても変わりたいけれど, 難しいと感じているのね」と言うと「そう, 池と湖はつながっているけれど, 出口が見つけれなくて金魚は湖に行けないの」と語った。

#14では「十姉妹に卵が産まれた。羽を広げて卵を温めている」と語った。MSSM8ではC1: クマの後ろ姿, T1: (クマが住むところとして) 山, C2: 正面を向いているシロクマ, T2: (山にあるものとして) 木の上の卵, C3Th→Cl: オットセイと海と山, を描いた。Thの投影したT1に『山の動物園』の看板を, T2に親鳥と動物園の柵とクマと柵の外の人を, 描き足した。物語は『クマのぶうすけは動物のクマです。だけど, ぶうすけは人間だと思っています。オットセイのオルカもシロクマのぶーもそう思っていました。動物たちは人間だと思い続けて死んでしまいました』というものであった。今回, Thはサーブ・レシーブには, 全く同質, というより, 近いが少しずれたものを描いたが; Clは描きこみにより全体を統合させる努力をしていた。母親面接で「食事を一人で食べていたのが, 父母の間に入って食べるようになった」という変化が報告された。

#15では「十姉妹のヒナが5匹孵った」と報告した。MSSM9ではC1: 流れ星と山, 流れ星を見ている親子, T1: 天文台, C2: 落ちて涙を流す星と山, T2: Cl→Th: 満月と山, C3: 星と月と山と天文台, を描き, T2に落ちている流れ星とそこにあたる月の光, それを見ている親子を描き入れた。物語は『ある日, 星を見ていると, 大きな星がおこちてきました。月は星に光を当てると, 星はまた空に上り, どの星よりも美しくなりました』との物語を, いつもより四苦八苦して作成した。Thはレシーブにおいて, ちょっと異なったものを返すように工夫した。母親面接では「仕事があったが, 今日と一緒に来てくれる?と頼まれたので, エイッとと思って来ました」とのこと。#16では「十姉妹のヒナを手乗りにしようと親鳥から離して育てている。2週間前から姉の男友達で大阪弁の人に家庭教師をしてもらっている」と話した。MSSM10ではC1: 犬, T1: 鳥の巣のある木, C2: 魚と池, T2: 山と川と湖, C3: ヒヨコと家, 池, 魚, 犬, を描いた。ClはT1, T2に飛ぶヒヨコを描き加えた。物語は『あるところに犬と子猫が住んでいました。2匹が湖の魚を見ていると, 大きな鳥を見つけました。その鳥は2匹の友だちになって3匹で住むことになりました』というものであった。母面接では「家庭教師と姉と3人で出かけるようになった」とのこと。#17では「十姉妹が飛ぶようになった」と報告した。MSSM11ではC1: 実のなる木と鳥, 湖, T1: (Clのサーブはほんの一本の線であり, C1とは全く異質だが, どうしても描かずにいられず) 女の子, C2: 鳥カゴに入って泣いている鳥と窓の外に羽ばたく鳥, T2: 網, C3: 羽ばたく鳥とそれを見る女の子, を描いた。今回, ClはThの投影に描き足しをしなかった。物語は「あるところに美しい鳥がいました。だけど飛ぶことはできません。飛ぶことが出来ないまま, 鳥は人間に掴まってしまいました。鳥はカゴに入れられました。鳥は飛ぶことは出来ないけれど, 何とか外に出ることが出来ました」。

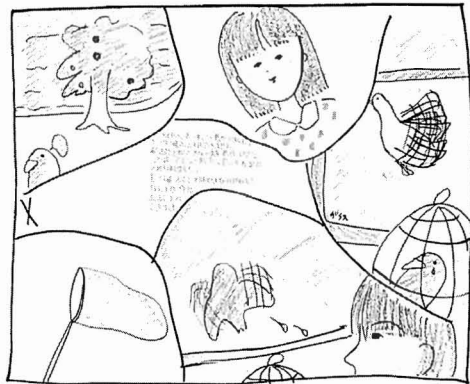


写真4 #17 M11

第3期: #18(X+1年6月)~#24(10月) (MSSM12~18) 描画上に攻撃性の発露がみられた時期

#18からよく喋るようになった。「手乗りにしても親鳥のカゴに入るとすごく喜んでしまう」と話した。

MSSM11ではC1:宇宙人, T1:キノコ, C2:水面に浮かぶアヒルと手前に家, T2:飛ぶ鳥, C3:鳥と話す宇宙人とUFO, を描いた。その後, T1に鳥を, T2に家を描き足した。物語は『あるところに人形がありました。人形は『助けて』と言うので, 鳥はキノコを見つけて人形に食べさせました。すると人形は宇宙人になり, どこかへ行ってしまいました』。#19のMSSM13ではC1:池にワニ, 草むらに鳥, T1:山と山から流れる川, C2:草むらにしゃぶのある鳥, T2:口を閉じたワニ, C3:池のワニと草むらの鳥, を描いた。この回からしばらくはThの投影した欄への描き込みがない。物語は『あるところに人をだますキツネがいました。キツネは鳥に化けてワニのところに去了。キツネはワニに食べられそうになり, キツネはワニの口に唐辛子を入れ, ワニをこらしめました』というもので, 「つかまえられそうになって逃げる」というスタイルから「懲らしめる」という反撃のスタイルに変化した。#20(8/3)のMSSM14ではC1:木になるバナナ, T1:バナナの木と山と虹, C2:ふたたび木になるバナナ, T2:(Clの曲線のサーブを使って)バナナを食べるサル, C3:(Thの鋭角の線を使って)バナナの実を見て泣くサル, を描いた。Thの投影したマス目への描き込みはなかった。物語は『おいしそうなバナナがありました。サルはそのバナナをとって食べようとして。でもそのバナナはくさっていて食べることは出来ませんでした』というもので, Clは一寸得意そうな, 困ったような笑みを浮かべた。#21では「鳥も犬も元気です。話すことはない」と述べた。MSSM15では, C1:口のついているお花, T1:目のついているチョウチョ, C2:4つの緑色の山と中央に1つの黒い山, T2:Cl→Th:キノコ, C3:カワウソ, を描いた。物語は『山がありました。5つある中で, 1つだけ日の当たらない山がありました。その山はめずらしい花, キノコ, チョウチョなどがありました。カワウソはこの山が好きになりました』というもので, 「後ろの山が黒かったのは前の4つの山が光を遮っていたからである」と述べた。#22(9/1)では「十姉妹が新しく生まれて, 5匹の白十姉妹になった」と述べ, Thは前回のMSSMと符合することに興味深く感じた。MSSM16ではC1:ウサギ, T1:山と川と広がる平野, C2:ニワトリ, T2:アヒルのようなニワトリ, C3:ウサギとニワトリが驚いているところ, を描いた。そしてC1にニワトリを描き加えた。ThはClと同じニワトリを投影したが, それらは物語で別のニワトリとして数えられた。物語は『ある山にはウサギとニワトリなどが生きていました。ニワトリは2匹いました。ニワトリが食べられそうとき, ウサギが助けましたとき』。

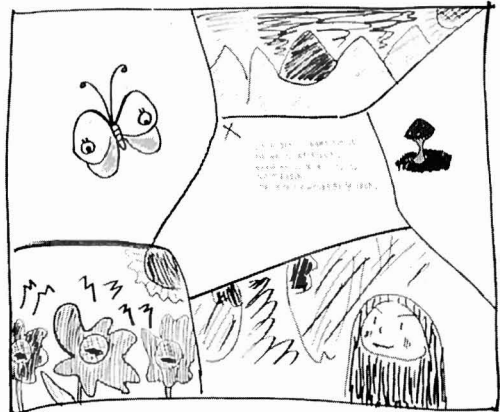


写真5 #21 M15

#23では母と来院。Clは長い髪を下ろし, 黒いTシャツとズボンで急に大人っぽい雰囲気になっていた。そして「英検を数ヶ月後に受けようと思っている」と述べた。MSSM17ではC1:赤い目のウサギ, T1:面白い顔のネコ, C2:Th→Cl:パン, T2:帽子, C3:ヨッシー, を描いた。そしてT2の帽子の下に長い髪を風に飛ばした女の子の姿を丁寧に描き, 自分の描いたC2にパースデーケーキを描き足した。『今日は森のパーティの日です。ネコ, ウサギ, 女の子, そしてヨッシーとパーティをしました』という物語を書いたのち, 最後にT2の女の子に目を入れた。#24では高校は何処を受けようか考えていること, 中学は登校する気持ちはないこと, 相談室登校についてはもう少し考えてみると語った。家の人は何も言わないので居心地がいい, と話すのを聞きながら, Thの脳裏には夜中もぼつねんと悩んでいる姿が浮かんだ。MSSM18C1:Th→Cl:四つ葉のクローバー, T1:Cl→Th:クローバーを照らす太陽, C2:Th→Cl:クローバーを持つウサギ, T2:Cl→Th:じょうろ, C3Th→Cl:クローバーを持つ手, を描いた。T2のじょうろにじょうろを持つ手とクローバー畑を描き入れた。物語は『四つ葉のクローバーは1つしかありません。四つ葉のクローバーは神様が水をやり, 太陽が育てます。だから1つしかありません。うさぎは四つ葉のクローバーを見つけ出しました』というものであった。Thが絵の中のクローバーの気持ちを尋ねた。<クローバーは一人でいるときどんな気持ちだったのかな>「平和な気持ちだった」<見つけれられたときは?>「ちよっ, ちくしょ

う。見つけられた、と言った」<水を掛けられたときはどんな気持ちでしたのかな?>「幸せな気持ち」<太陽に照らされたときは?>「幸せな気持ち」<四つ葉のクローバーはひとりぼっち?>「三つ葉がいるから、ひとりぼっちではない」<ユニークであるって素敵なことだけど、ちょっとひとりぼっちに浮き上がることは淋しくない?>「え?別に」

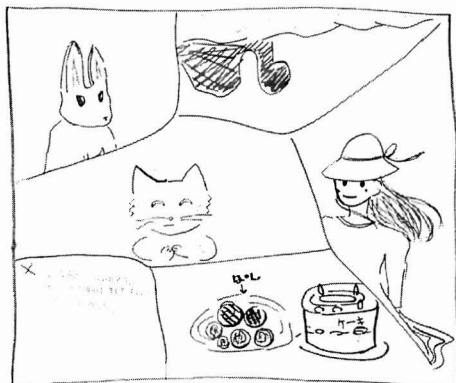


写真6 #23 M17

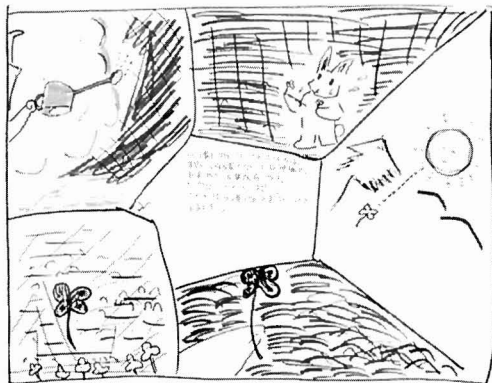


写真7 #24 M18

第4期：#25(X+1年10月)～#45(X+2年9月) (箱庭4, MSSM19～26) 言葉による面接へ

#25から爆発的に言葉が出るようになり、話のみの面接が出てきた。そして言葉の上で相手を皮肉ったり、攻撃性を発揮することが出来るようになってきた。また財布、パジャマ、コート、メガネ、コンタクトレンズなど、欲しいものがたくさん出てきた。#26 (11/10) のMSSM19ではC1: リンゴの木, T1: 家, C2: リンゴの木, T2: リンゴ, C3: 男の子と女の子, を描いた。T1に男の子と女の子, リンゴの木を, T2にも男の子がリンゴを見ている姿を描き足した。物語は『とてもおいしいリンゴの木がありました。太郎はとてもリンゴがほしくて、リンゴを取って食べてしまいました』。#27, #28は話のみ。#28では「体の内側から何か気持ち悪いのがわいてくるが、ご飯を食べると落ち着く。朝食は一番最初に食べるエネルギーのもので、ちゃんと食べたい」と語った。#29 (12/22) のMSSM20ではC1: 正面を向くウサギ, T1: 横向くウサギ, C2: 切り株, T2: クマ, C3: クマの横顔とウサギ, 鳥, を描く。T1のThの描いたウサギの両手にバナナとリンゴを持たせ, C2の切り株の周りに動物たちを, T2のクマのそばにもリンゴを描きこんだ。物語は『あるところに悪いことばかりするウサギがいました。それをみてクマはウサギをこらしめました。ウサギはもう悪いことをしなくなりました』と書いたので, Thがくつまないね。そんなに素直なウサギなんですか?>と問うたところ, Clは「じゃ、もうちょっと手を加えようかな」と言って『でもクマもウサギと同じように悪いことをしていました。そのことを皆は知りません』と書き足し, うれしそうに笑った。母親面接では「学校の先生が来て, Clのいじめの原因はクラスの男子の暴言にあったと。見過ごしたことを謝ってくれた。本人はすごい笑顔を見せた」と話された。

#30 (X+1/1/19) ではくもう少しいじめっこのことを話してくれない?>と投げかけたが, 「いや, あまり思い出したくない」と拒否した。MSSM21ではC1: Th→Cl: 坊主頭の人と犬, T1: Cl→Th: ハンカチ, C2: Th→Cl: 坊主頭の人が驚いている, T2: Cl→Th: 山, C3Th→Cl: ひらめいている犬の横顔, を描いた。Thの投影したT2に, 山へつづく道と家, 道をたどる人と犬を付け足す。物語は『太郎がいました。太郎はハンカチをなくしてしまいました。コロが持ってきてくれて, 二人で家に帰りました』。#31 (2/2) では「お母さんと食べ物でけんかした」と涙を浮かべながら話した。MSSM22ではC1: ブタ, T1: おっぱい, C2: ブタ, T2: アシカ, C3: 笑顔のブタとアシカ。C2のブタにアシカも加える。Thの投影には描き足しはなし。物語は『アシカはオッパイを飲んだことがないので, ブタに頼んで飲ませてもらいました』と書き, ちょっと恥ずかしそうな表情をした。#32 (2/16) では「いじめっ子に対して拳骨で顔面を殴っ

てやりたい」気持ちを話すことができた。#34 (3/23) から適応指導教室に行き始めた。箱庭を希望。箱庭4『海辺の少女』を作り、「こういう浜辺にずっといたい」と話す。#35 (4/6) 「お母さんも私の気持ちを考えてくれたし、私も親に負担をかけないようにしたいと考えている」と話す。MSSM23ではC1: 風船, T1: 犬, C2: 山, T2: 長靴, C3: 風船を持つ犬, を描いた。物語は『犬は山に行こうと思いました。それで赤い長靴, 風船を持って山へ行きました』。絵も物語もシンプル。#36 (4/20) 「学校に戻れるものなら戻ってやり直したい。そのことを引きずっていくのかな」と話し、いじめっ子を殴りたい気持ち, 母親を傷つけないという気持ちを語った。「学校に行かないなら母が身投げすると云ったのが耳に残っている。夏休み中に感電死しようと思って出来なくて, 夏休み終わる頃に母によく言った。傷つけない」と流涙。#38 (5/11) 髪をショートカットにしてきた。MSSM24ではC1: サボテン, T1: メキシカンハット, C2: サボテン, T2: サボテンのいる砂漠, C3: サボテンと切符, を描いた。物語は『サボテンがありました。サボテンは自由になりました。サボテンがメキシコに行ったけど, 今までとあまり変わりませんでした』で, 「適応指導教室がそれほど自由ではないということに気づいてショックです」と話した。#39 (5/18) #40 (5/25) #41 (6/8) では勉強に勤しんでいる様子であった。#42 (6/22) では「アメリカに行きたいという夢がある」と語り, #44 (8/10) では「母と姉と3人でダンベル体操を始め, 父はタバコを止めた」と家族の連帯的な様子を話した。MSSM25ではC1: 花, T1: 花束, C2: ウサギ, T2: (C1の要望に応じて) 車, C3: クマとウサギ, happy birthdayの看板, を描いた。そして最初の花のそばにウサギを描き足した。物語は『今日はクマのBirthdayです。ウサギは金がないので花束を車にのせてクマにあげました。クマは喜んでいました』というもので, 「でもウサギももっと苦勞せなあかん。これじゃクマが可哀相だ。ケーキの1つも添えなあかん」と語った。今まで何を描いたらいいか, とのThの問いに注文を出さなかったがC1であったが, 今回, 言葉で描いて欲しいものを注文できた。そして「気まずい沈黙があると何でも言いたくなくなってしまう。ここでも前はそうだった」と語った。#45のMSSM26ではC1: 木と海, T1: 女性, C2: 黄色いバラ, T2: 青い水差し, C3: 赤い犬, を描いた。物語は『赤い犬と黄色いバラが, 水になって, その水が, 海と木と混ざって, 人間になった』というものであった。元型的な印象。

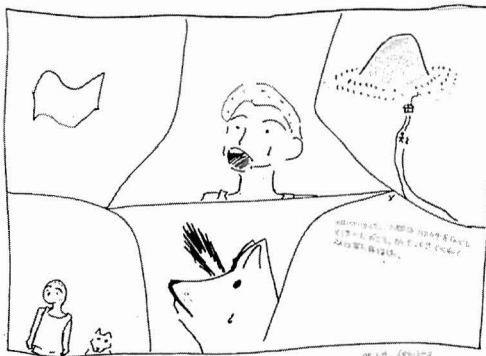


写真8 #30 M21

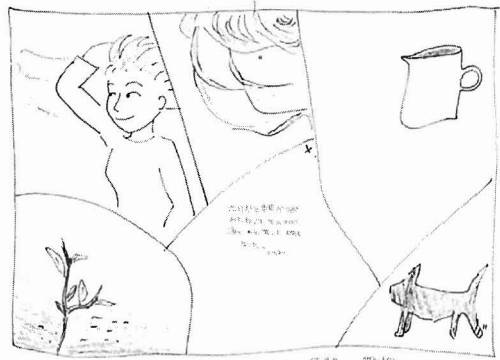


写真9 #45 M26

第5期: #46(X+2年9月)~#60(X+4年5月) (自由描画1~5) 自分らしさの表現

#46ではC1の希望で3つの領域それぞれに自由画を描いた。「左側は疲れた顔の黄色の犬, 真ん中にいそうでない赤い犬, 右は赤いバナナと赤いリンゴを見る青い犬。右は黄色い海, 左は紫の海。海が好き。きれいな海に行きたい。黄色い海や紫色のや, そんな海があってもいいんじゃないかなあ。安心するような潮風を感じる」と話した。#47, #48は「筋肉を付けている」「女友だちは運動をしなくなった。女子は小さいものという観念を打ち砕きたい」と語った。#49 (11/9) では「いろいろなものに触れたい」と言いながら自由画2『カブトムシ』を描いた。#51 (X+2/1/25) で高校合格。#52 (2/22) では「いじめっ子たちさえ,

いなかったらと思う。許せない。人間性のかけらもない。がんばって見下してやりたい」といじめの具体的な内容や「周りに分って欲しくもあつたし、分って欲しくもなかった」＜ギリギリ苦しんだね＞「苦しんだんですよ！」と語った。#53 (3/28) 自由画5『小指のない人』を描いた。＜この人、何て言っている？＞「えー？うそー！って」と話す。#54,55,55では母が「母の日にバラの花束をくれた。手紙には『今まで心配かけてごめんね』とあつた。CIがいろいろ言ってくれるので、それに呼応してやってやれるのが嬉しい」と語った。#56 (7/25) 「留学したい。『ナイトメア・ビフォア・クリスマス』のような争いのない国があればいいが」と。『ナイトメア・ビフォア・クリスマス』は、「ハロウィーンのお化けの住む世界のヒーロー的存在のジャックが毎年同じようなことをするのに疲れ、たまたま迷い込んだクリスマスの世界のハッピーなやり方に感激し、形だけ真似ようとするが、却って人間の子供たちに恐ろしい思いをさせてしまい、自分たちは自分たちらしいやり方が一番だと知る」というストーリーの映画。#57 (9/22), #58 (12/19) は母のみ、#59は父母で来院。#60では「学校を辞めたくなった」と来院したが、話しているうち、「いざとなったら通信高校に行ってもいいですよ。なんか大丈夫な気持ちになったので、やっぱり卒業してからアメリカに行きます」と語って帰った。そして高卒後、アメリカの大学に留学したという。

Ⅳ．分析の方法

以上の面接過程について、以下の方法で分析を行った。

(1) 現実適応の改善の指標としての面接での言葉の量

現実生活においてもほとんど喋らず引きこもっていたCIであったため、面接時に発した言葉の量を、会話を筆記した面接記録から会話のみで40分間面接を行ったときを1とし、それに対する割合で数値化し、回復のひとつの指標とした。

そのほか、回復の目印となる生活のエピソードとして、「家庭教師を頼むようになる」「英検の準備を始める」「適応指導教室に通室するようになる」「高校受験に合格する」という前向きの変化と共に、「いじめられ体験について言語化する」「攻撃性を表出する」などの事象をグラフ上に記載した。

(2) CIがThの投影した絵に「描き足し」(D(+))と記すをした割合

本症例のCIは、スクィグルの往復を5往復した後、物語を作成する前にThの描いた描画に「描き足し」をしたが、T1, T2の領域のうち、D(+)の割合が0, 0.5, 1のいずれかであることを調べ、その推移と言葉の量、現実適応の改善との関係を見た。

(3) 投影内容の一致率・不一致時の補完率

サーブの描線に対し、レシーブとして描かれた描画をロールシャッハ・テストの内容分類にしたがって分類した。1回目のThのサーブに対してCIの描いた描画をC1とし、次にCIのサーブに対してThの描いた描画をT1、2回目のThのサーブに対してCIの描いた描画をC2、2回目のCIのサーブに対してThの描いた描画をT2、最後、Thのサーブに対してCIの描いた描画をC3とした。そして各回においてC1に対するT1およびT2、C2に対するT2の一致する割合を求め、「C→T一致率」とした。またT1に対するC2およびC3、T2に対するC3の一致する割合を求め、「T→C一致率」とした。さらにC→T、T→C全体の一致率を「C-T一致率」として求めた。不一致の場合は、その関係が「不一致であっても補完的か／無関係か」で分類し、補完率を求めた。ここで補完的とは、「蝶一花」というような対義語、「人一家」「木一森(山)」というような包含する関係あるいは環境的な関係にあるものを指すこととした。

(4) 物語の内容分析

MSSMの最後に作成した物語に含まれるテーマとして「～になる／になれない」という自己実現、自己イメージ獲得のテーマと「食べる／食べられる」というエネルギー獲得・奪取のテーマを取り上げ、それらと言語表出の関係を見た。

また、MSSMの物語に「ウサギと白鳥」など同伴者を伴う場合と、さらに第3項たる他者に出会う、ま

たは物を介して3項関係を形成している場合が見られたので、それらの出現時期と言語表出の関係を見た。

V. 結 果

(1) CIがThの投影に「描き足し」(D(+))をした割合と言葉の量・現実適応の変化(図1)

面接時の言葉の量を折れ線グラフ、描き足しの割合を棒グラフで表した。下の目盛の表記は、MSSM1回目をM1と表記し、MSSMを行っていない回では箱庭をS1、言語面接のみをVと表記した。#9M4から#16M10まではD(+)が0.5~1であった。ことにM4~7は(2)で述べるようにThとCI双方の投影が一致した分類のものであり、さらに面接経過にあるように「どのマス目をどちらが描いたか分からないような」描き足し方であった。しかし#17M11ではD(+)は0になり、#18M12では再び0.5となるが、この回から言葉が0.1から0.4に増える。その後、MSSM上で攻撃性を表出した期間、D(+)は0となり、#23M17から再びD(+)が増加する。ことにM17ではD(+)は0.5と率こそ半分であるが、その内容は「T2で描かれた帽子の下に女の子の全身像を描き入れ、自分の描いたパンのそばに丸型のケーキを描いてから最後に女の子に目を入れる」というもので、大きなD(+)といえる。#24M18ではThの描いた「じょうろ」—無関係にもなりうるもの—に対し、「雲の上からじょうろで水をやる神様とクローバー畑」を描き足し、統合した。この回、ThはCIの描いた「四葉のクローバーの気持ち」を問い、CIは言葉で叙述している。そしてその後から面接で言語が爆発的に増加し、家でも明るくなったと報告された。#25から言葉でもThに皮肉を言ったり、真っ向から反対する等、攻撃性を表出できるようになる。#26M19、#29M20でD(+)の割合が1に上がるが、その後D(+)は#31M21でThの描いた山に足した「山へ続く道、山の麓の家に続く道を歩く少年と犬の遠景」を最後に見られなくなる。同時期に「いじめられ体験の言語化」がなされ、今まで触れられなかった「怒り」「悲しみ」という感情を表現するようになる。

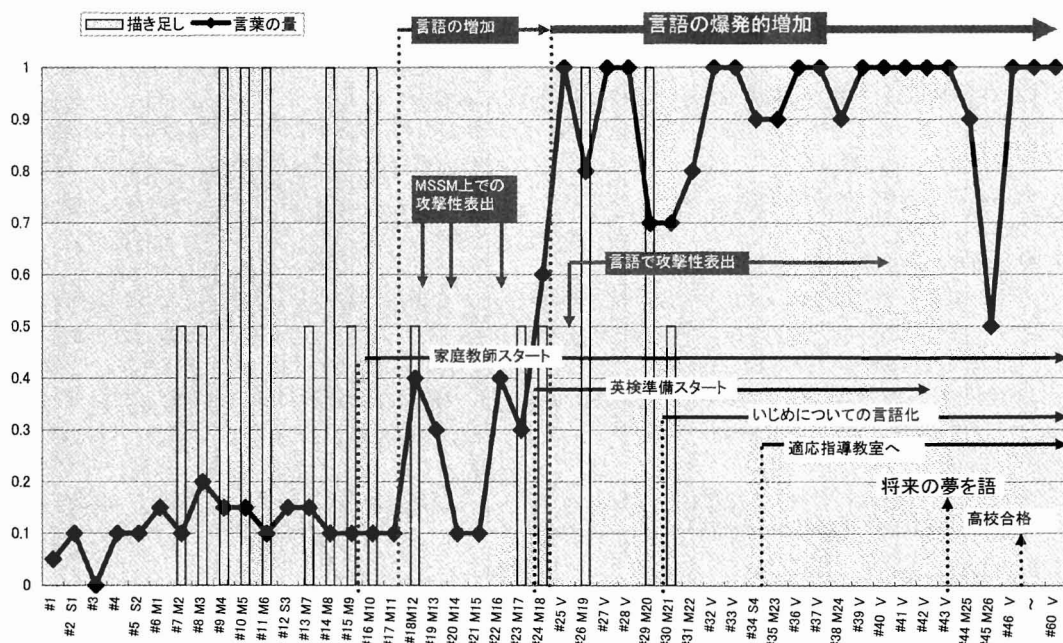


図1 描きこみと言葉・現実適応の変化

(2) 投影内容のC (Cl: クライアント) とT (Th: セラピスト) 間の一致率・不一致時の補完率と言葉の量・現実適応の変化 (図2)

方法のところで述べたように、「C→T一致率」(0~1) (図1の濃いほうの棒グラフ)の推移を表した。また投影内容が一致した分類にならない場合のC→T補完率の推移を示した(図1の薄いほうの棒グラフ。一致率が1未満の場合のみ表記してある)。以上はClの投影の後にThが反応した場合とThの投影の後にClが反応した場合の双方を含めて記してある。というのは、Clの投影内容に対するThの一致率・補完率の推移もしくはThの投影内容に対するClの一致率・補完率の推移は、ごく一時期を除いて、ほぼ同じ動きをしていたため、前者の内容で表した。すなわちClに対するThの一致率がThに対するClの一致率より低いのは、#8M3と#17M11、#22M16、#24M18のみであった。#8M3と#22M16ではThの側の不一致が多くても補完率が高かったが、#17M11、#24M18においては、Thの一致率・補完率は両方ともClのThに対するそれよりも低かった(それぞれClの0.33に対しThは0、0.67に対し0.33)。#17M11は(1)で急にD(+)が0になる(描き足しがなくなる)回であり、#24M18は再びD(+)が増えた時期である。ここにThのずれに対するClの反応の違いが認められる。

さて、Th-Cl間の投影内容の一致率および補完率は#9M4から急激に上昇し、一致率が1から0.67に下がった#14M8から#16M10までは補完率が1と高くなっている。この期間は(1)のD(+)が0.5~1と高かった時期でもある。現実的には#12S3では「家族はバラバラだ」と言い、一人で食事をとっていたClが、#14M8で「父母の間に入ってご飯を食べる」ようになったと報告されている。そして#15M9から「家庭教師との勉強」を始めている。

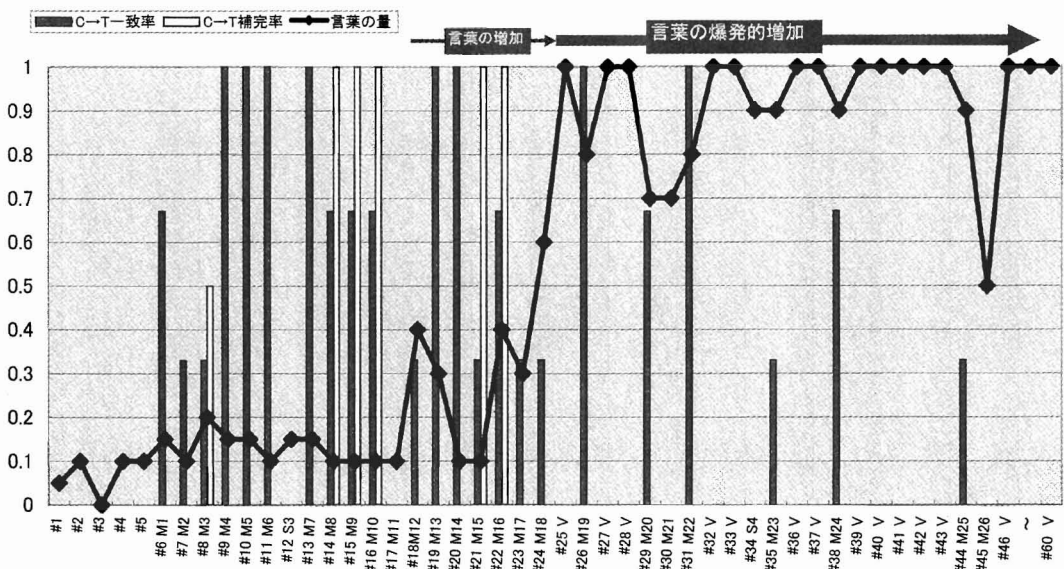


図2 C-T一致率と補完率と言葉の量

#17M11で一致率と補完率が急激に降下するが、面接経過に示したように、これはClの描画に対するThの応答が全く異なった分類に入るものになっているからである(Clの鳥に対して、T1は女の子を、C2の鳥に対してT2は虫取り網を投影した)。その後、#18M12から言葉の量が増えた。その後C-T一致率は再び高くなるが、これはThが再びClに一致した投影をし、不一致時も補完的な応答をしている。この期間、MSSM上でClから攻撃性が発揮される(M13:食べられそうになったキツネが鳥に化けてワニの口に唐辛子を入れる。M14:サルが食べようとしたバナナは腐っていた。M16:ニワトリが食べられそうときウサギが助け

た)。(1)で見たように、この時期はD(+)も0となっている。

#21M15からC-T補完率が上がるが、#23M17で再度、C-T一致率・補完率ともに降下する。そしてその後の#24M18から言語表出が増え、#25からは爆発的に言葉が増加し、言語のみの面接が増加する。そして言語面接でThに対して攻撃性を発揮することができ、いじめられ体験の言語化が進んだ。

(1)で見たD(+)との関連で見ると、#26M19、#29M20で一致率が0.67でD(+)は1であり、#30M21で一致率が0になったがD(+)は0.5に減少し、これ以後、描き足しはない。その後、一致率は#31M22で1、最後から2番目の#45M25までは0.5~0.33、#46M26で0であった。

(3) 物語の内容と言葉の量・現実適応の変化(図3)

① 同伴者の存在と第三項との出会い

家では会話もなく、一人で過ごすことが多いCIであったが、#7M2から#11M6までは物語で「ウサギと白鳥」「人と犬」「大オタマジャクシと小オタマジャクシ」「複数のネコ」「5匹のヒヨコ」など同伴者と共に「食べる」「旅をする」「訓練する」様子が描かれた。#14M8では父母の間に入って夕食をとるようになったことが報告されたが、#16M10の物語では、「犬と子猫が魚を見ていたら、鳥がいて、3人は友達になった」と同伴者(2者)の関係から三者の関係になった。またこの時期、家庭教師を始め、姉と姉の友達である家庭教師と3人で出かけることも出てきた。#18M12から言葉が増加する。

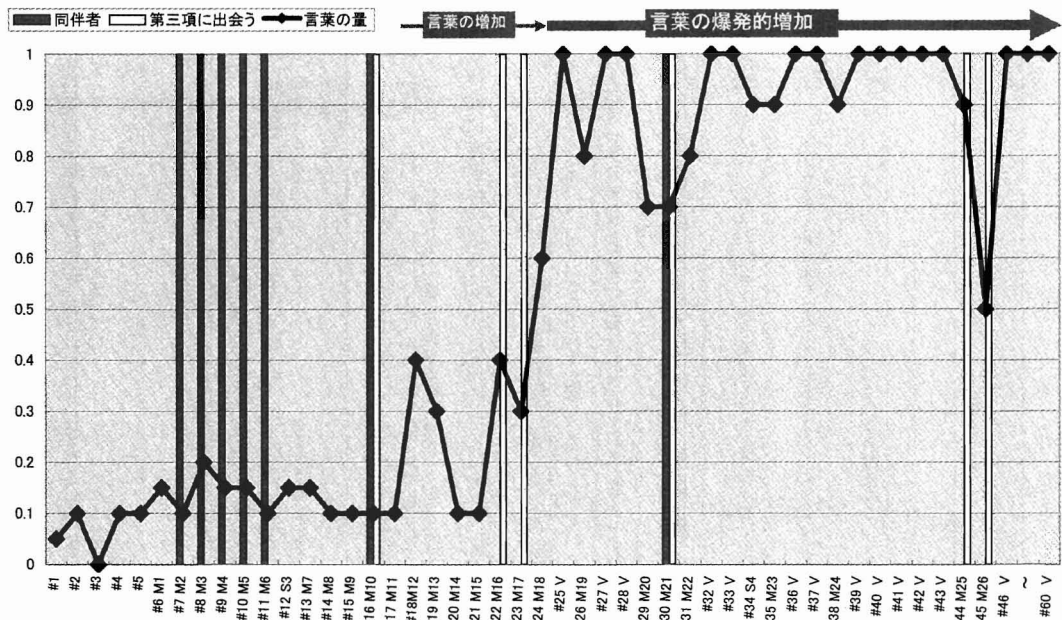


図3 「同伴者・第3項との出会い」のテーマと言葉の量

#22M16では、CIの投影したものと同じニワトリをThは描いたが、CIはそれを同一物と扱わず、「2羽のニワトリ」とした。そしてそのニワトリは「食べられそうになったところ」をウサギに助けられた。#6M1では「つかまえられた鳥は一人でワニになって逃げた」が、ここでは第3者に助けられる3項関係が認められる。#23M17ではウサギとネコと女の子とヨッシーの4者が会食する。この後、爆発的に言葉が増加する。#30M21では「太郎が失くしたハンカチをコロが持ってきてくれる」という物語であり、「太郎-ハンカチ-犬のコロ」というように、物を介した3項関係が認められる。その後、#32で「いじめっ子への気持ち」を

言語化する。#44M25でも「ウサギー花束一クマ」の3項関係が認められ、母親に対する償いや感謝の気持ちが表されている。#45M26で（赤い犬＋黄色いバラ）＝青い水、そして（水＋海＋木）＝人間、となり、2者から水が生じ、その水を含めて3者から人間が生じたという物語である。

② 「～になる／なれない」と「食べる／食べられる」のテーマと言葉の量・現実適応の変化

i. 「～なる／なれない」のテーマ

#6M1では「捕まえられた鳥がワニになってどこかへ行った」という話であり、「自分でない何者かに変身すること」によって自由になる。#9M4では「カエルになれるか心配していたオタマジャクシは湖に行く間にカエルになった」とあり、大人になることへの期待と不安のテーマである。#11M6では「ヒヨコは白鳥にはなれず、ニワトリになったが、空を飛べるようになった」とあり、変身は出来なくても鍛錬によって獲得できる技術もあることに気づいている。#13M7では「金魚は外国に行ったが鳥になれず、閉じ込められてしまった」とのことで、外の世界を探索しても変身は無理だと分かっている。現実生活ではこのあたりで実際に鳥を飼い始める。#14M8では「クマのぶうすけは人間だと思いこんだまま死んでしまった」とあり、自分とは何者か？という問いかけである。#15M9では「落ちた星は月に光を当てられて、どの星より美しくなった」とあり、一度地に落ちて傷ついても自己イメージを回復できることを信じているとわかる。その後、家庭教師と勉強を始める等、前向きの変化が見られ、#18M12から言葉が増えた。

M12では「『助けて』というので鳥は人形にキノコを食べさせ、人形は宇宙人になってどこかへ行った」という話であるが、終了後「全然よくない話だ」と無然としていた。「食べさせられることで、自分で無い何かになる」ことについての不快感の表明である。

次に述べるようにMSSMで「食べさせる」形での攻撃性を発揮した後の#21M15では「5つの山のうち1つだけ黒い山があったが、珍しい花や蝶がいて、カワウソはこの山が好きになった」という物語を作成した。ここに直接「なる／ならない」という言葉は出てこないが、「他の何にもならない、ありのままの、他ならぬ自分を好きになる」という内容と判断し、ここに分類した。この後#24M18から言葉が爆発的に出る。その後、MSSMの物語のテーマは「食べる」「獲得する」「取り戻す」「行く」「贈る」と続き、その間に現実的には英検準備を始め、適応指導教室に通い始め、高校受験の勉強に勤しみ、いじめ体験の言語化が進むようになった。#45M26では「赤い犬と黄色いバラ」という二つの要素が「水」という1つの要素になり、その1つの要素と「木と海」という他の二つの要素、あわせて3つの要素から人間になる、という物語であり、自我を再構成した経過を表していると考えられる。すなわち先のテーマ、第三項に出会うでも述べたが、初期は2者関係を主にやり、後期は3項関係を経て、自我が再構成されたことを述べている。この後から絵でやりとりするのではなく言葉のみの面接もしくは自由画を描きながら会話する形の面接となる。

ii. 食べる／食べられる」のテーマ

#8M2では「欲しいものは（他者に）食べられたので、（代わりに）りんごを食べた」という物語で「食べたいものを代わりのもので我慢する」という内容であるが、この日「一人で祖母の作った夕食をとる」と話した。#10M5では「ネコが獲物の取り方を神様に教わり、神様への感謝の歌を歌う」というもので、「食べたいものを食べる」「獲得したいものを獲得する」力の習得、地道な鍛錬が重要なことが分かる。その後、「～になる／なれない」というテーマが続き、#18M12から言葉が0.1から0.4へ増加する。iでも示したようにM12の物語は「鳥は助けを求める人形にキノコを食べさせ、人形は宇宙人になった」という内容で、まだ自分で獲得するのではなく、他者に与えられる形であり、CIは物語に不快感を示している。

#19M13では「キツネはワニに食べられそうになり、ワニの口に唐辛子を入れて懲らしめた」との話で、食べられそうときに反撃する形で攻撃性を発揮できた。#20M14では「サルがバナナを食べようとすると、バナナは腐っていて食べられなかった」との話で、サルを描いたThに欲しいものが食べられなかった体験を経験させた。食べ物による攻撃性を発揮できた後、先のiにも記したように、自己イメージに反転が生じる。攻撃性を自我に統合したため、#22M16ではM1と異なり、「2匹いるニワトリが食べられそうとき、ウサギが助けた」と、助ける力が備わった。この力により、#23M17では帽子の下に生まれた女の子とネコ、ウサギそしてヨッシーという謎の生物も加わり「森のパーティ」で会食し、さらに新しい要素も統合する力

が備わっていることが分かる。爆発的な言葉の増加があった後の#26M19では、「太郎はりんごが欲しくて欲しくて、取って食べてしまった」との物語であり、M2では食べられなかった「欲しいもの」を獲得する力を得たことが分かる。しかし#31M22では「アシカはブタにオッパイを飲ましてもらった」という内容であり、CIの心の根底にある願望、すなわち人生初期の母親から貰えなかった授乳体験に対する切望が表現された。これを表現した後は「食べる」テーマは出現しない。その後、高校受験について話題にすることができ、適応指導教室に行き始め、いじめられ体験に対するアンビバレントな感情を表明し、将来アメリカへ行く夢を語り、高校に合格することが出来た。

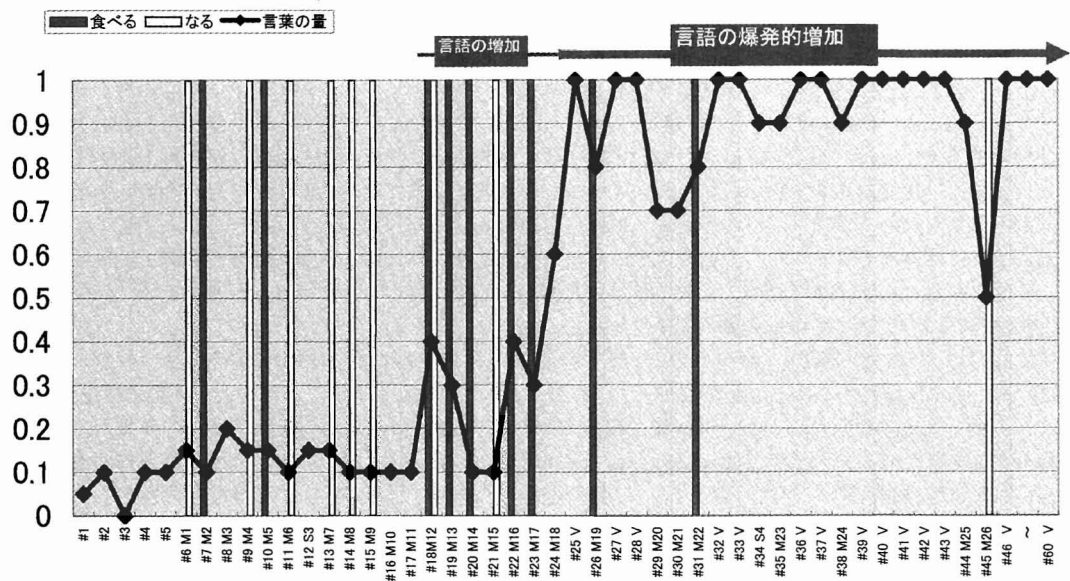


図4 「食べる・～なる」のテーマの出現と言葉の量

V. 考 察

(1) 描き足し・一致率の変化が表すものと言葉の量の変化を巡って

松本(1997)はスキュグルを用いた面接により言語の表出と不登校という主訴の解消を見た症例について、初期にはThのスキュグルにおける応答は「CIの描線と描画に寄り添っていく」ものであり、後期は「描き合う」関係になっていると観察している。

本症例では図2にあるように初期、#9M4から#16M10までは一致率および補完率ともに高く、#17M11で下がった後も#22M16までは一致率もしくは補完率のどちらかが高かった。また図2にあるようにC-T一致率の高い#9M4から#16M10までの時期にCからTの領域へのD(+) (描き足し)が多く認められる。この時期、松本(1997)の言うように「CIとThの描画は寄り添っていく」ものであったと言える。

M10で主人公が2者の同伴から3者の出会いに変わった後の#17M11で一致率、D(+)ともに急激に下がる。この#17M11では結果(2)で説明したように、Thの側の一致率の低下がCIのそれを上回る。これはウィニコットの言う「母親の脱献身」に相当するアクションではないか。ウィニコット(1979/1971)は「まず幼児の欲求に能動的に適応し、(中略)幼児の能力が増大していくのに応じて、次第に能動的な適応を減らしていくような母親」が「ほほよい」と言い、北山(1988)は「母親の受容的態度から拒否的態度への変化が、根

底からひっくり返るもので、突然で急激であるなら、幼児は受容的な世界について取り返しのつかない幻滅を体験するだろう」と言っている。#17M11における一致率の低下は急激で、D(+)もずれにびっくりしたかのように0になるが、その後、描き足しは増えないが、一致率は再上昇しており、急激さを和らげている。そして言葉が若干増えた#18M12の後からCIは攻撃性を描画の中で発揮していく。これは一致率および補完率の低下、すなわち「ずれ」によってCIの中に生じた未消化物（北山 1988）を出す体験であったと思われる、脱献身が機能したと考えられる。

後半、一致率は#31M22まで上昇し、以後、低下するが、補完率はM20以降0となり、またD(+)もM22以降0となる。今まではThのずれた応答に対し、描き足すことで同化していたが、画面上で同化せずとも、M23のように「異質なものを自分の描画に取り入れて応答したり」、M25のように「描いて欲しいものを言葉で要求したり」、「異質なものをそのまま使って物語を構成したり」することが出来るようになった。老松（1993）はMSSMの物語性について「異物を自らの物語の中に統合する」機能を持つことを指摘しているが、本症例では、描画上での同化作業をなしえた後にその統合機能を使うことができた。尚、#29M20ではCIが作成した物語に対してThが言語で疑問を投げかけたが、それに応じて物語に手を加えた。また#30M21では「いじめの話」を投げかけたThに対し「その話はしたくない」と明確に拒否した。言語レベルでも異質なものの投げかけに対して取捨選択することが出来ていると言える。

描き足しの意味については、松下（1993）が「揺れるものを怖がる女兒の症例」において、Thがサーバー、CIがレシーバーと固定した役割のやり取りを続けた後に、役割を交代する本来のやり方に戻した際、CIのサーブに対してThが描画を完成させてもCIは満足せず、その上にThには「蛇足」に思える絵を加えたことを観察し、その蛇足を加える意味は役割の交代によって生じた不安の表明であると解釈している。それが母親との間では蛇足を加えられず、Thに対しては出せたことから、家族力動に介入をして治療効果を挙げた。本症例でも松下の症例と同様、「出したくても引っ込めてしまう」母子関係が認められたが、今回はC-T一致率・補完率との関係から、初期においては隙間なく合う関係を補強するものとして、脱献身によるずれが生じた後の段階では「相手とのずれ」を埋めるものとしての積極的な役割を持つのではないかと考える。そのほか、スキュグルにおける描き足しの役割に関する文献は見当たらないため、さらに研究を進めたい。

(2) 物語の内容分析から

同伴者の存在と第三項の出会いのところで説明したように、言語表出の時期と重ねて見て見ると、因果関係は不明だが、ちょうど3者が会会う物語のあたりから言葉が増加し、第3者に助けられ、次に4者でパーティをしたあたりから爆発的に言葉が増える。そして、物を介した3項関係が認められたあたりから、外傷体験や後悔や償いの気持ちの言語化が可能になった。熊谷（2006）は「「こと」の時間的变化を私とあなたのあいだで共有するようになる」のが、三項関係の段階Ⅱであるとし、ここへ至っていよいよ「現前しない出来事の口頭での想起を可能にする」言語の役割が必要とされるようになる」と論じている。MSSMの施行スタイル自体が3項関係を構造に持っているが、物語の中で3項関係が成立した頃に過去の体験を言語化できるようになっていることは興味深い。

本症例のCIが中心テーマに持っていたのは「自分を養う仕方を獲得する」「自分自身になる」ということであつたと思われる。結果で(3)② i で述べたように、「自分でない何か」に「変身する」ことを望んでいたが、まず一致率の高い応答を得た後、ずれを体験し、その後、攻撃性を発揮することを通して、「他ならぬ自分」を受け入れるようになった。「食べる」ことは「欲しいものを獲得する力」を現していると考えられるが、描画上の「食べる」テーマは人生初期に思ったようなオッパイが飲めなかった物語を#31M22に表してから描画には見られなくなる。「欲しいもの」を言語化し、「朝食をしっかりと食べないと、むずむずして気持ち悪い」という言葉による表現に変化していき、現実的にもダンベル体操を家族で行って筋肉を付け、英検受験、高校受験と欲しいものを獲得していった。

(3) その他の変化—マス目の区切りの線およびスキュグルのサーブの線（描線）について

MSSMのマス目の区切りの線は、MSSM1のみ直線で区切られ、あとは全て曲線で区切られるようになった。人を拒絶していたCIが人と共にいられる関係になったことと関係あるように思われる。

さて描線についてであるが、#6のMSSM1ではThの1個目と3個目のサーブは尖りがあったり、鋭角であったが、これは使用された。2番目のサーブは曲線であったが、わざわざ斜線で消してワニを描いた。#7のMSSM2ではThはなるべくやわらかい線のサーブとClに添うレシーブを心がけた。Thの最初のサーブの一部は斜線で消されたが、その後からはサーブを使って絵を描くようになった。#9のMSSM4では、Thの2個目と3個目のサーブは使われなかったが、お互いの投影は同カテゴリーのもので、同化作用が高いと思われた。この回以降、Thのサーブはすべて使用されるようになった。本研究では描線は使用されたか、使用されなかったか、の観点のみで、松本（1997）の行ったような長さの変遷や中植（2007）の行ったような描線の分類（主観的投影描線、統制のある描線、投影困難な描線、退行的描線）は行わなかった。描線が終始、短くあっさりしていて、統制のある描線のみであったということもある。また本研究では山崎（2008）の研究のような描線に誘発されるイメージや形を論じることなく、ClとThの投影の一致率を求めた。これは山崎の行ったケースのように、お互いの描線および投影を見ないで行うスキグルとは異なり、MSSMは紙面上にお互いの描画が一望されるため、描線というより、その前までのマス目に描かれた投影が影響を与えるのではないかと考えたからでもあった。しかし、今後の研究では、描線の長さ、分類、誘発イメージにも注意を払って分析したいと考える。

なお、松本（1997）はスキグルの描線の長さのほか、色彩数、描画内容数（ロールシャッハテストの内容分類に準じた分類による）、人間運動反応の有無、動物運動反応の有無を分析し、面接の4期それぞれについて平均を調べ、初期より中期にかけて次第に描線と色彩数が一旦増加し、その後、減少するのに代わって描画内容に運動性が認められるようになっていくことを指摘したが、今回の分析では色彩数、運動性についても分析しなかった。

VI. 結語

以上、MSSM上に現れた「描き足しの割合」、「クライアントと治療者の描画内容の一致率・不一致時の補完率」「物語のテーマ」の推移について調べ、これらと面接時の言葉の量、現実生活の変化との関係を見た。「描き足し」と「一致率・補完率」の推移の関連、さらにテーマの変遷を考え合わせると、一致率の増加のあとの減少が、言葉の増加の一つの契機になっていた。描き足しは一致率の低下時に初期は消失するが、その後、橋を架けようとするかのように増加した。その後、再度、一致率および補完率が増加したあと低下した際の「自己イメージが反転」し、「4者が会食をし、描き足しによって帽子の下に女の子が生まれた」後から爆発的に言葉が増加した。外傷体験の言語化は、物を介した三項関係が物語の中で成立した後からであり、それと並行して現実適応が改善した。これらの諸要素については明確な因果関係が証明されたわけではない。しかし少なくとも、描画内容の一致率や補完率、描き足しの変遷は治療的要素の推移を表している可能性があるとし唆された。今後は、描画に認められる変化と現実生活の変化との関係をより明確に示していきたいと考える。

謝辞

本論文で提示した症例の面接過程は、日本箱庭療法学会第11回大会ワークショップで発表した。発表に際してご助言下さいました小倉清先生、ワークショップ講師並びにコメンテーターの労をおとり下さいました山中康裕先生、Clとその家族に心より感謝いたします。

本論文をまとめるに当たって、ご助言下さいました糟谷政代先生・柳田多美先生に感謝の意を表します。

文献

- 北山修 1988 心の消化と排出. 創元社
熊谷高幸 2006 自閉症—私とあなたが成り立つまで. ミネルヴァ書房
松本真理子 1997 スキグルの治療的意義に関する一考察. 心理臨床学研究. 15(5) 501-512

- 松下恵美子 1993 スクィグル・ゲームにおける「サーバー」と「レシーバー」の役割固定と役割交代—
「揺れるものを怖がる」女児症例の治療的経験から—臨床描画研究Ⅷ. 70-84
- 須藤春佳 2008 Chumship 形成という観点から見た思春期女子との心理面接過程. 心理臨床学研究. 26(1)
1-12
- 山崎玲奈 2008 スクィグル・ゲームのなぐり描き線に内在する働きについて—臨床事例に根ざした実証的
研究を手がかりとして. 心理臨床学研究. 26(1) 59-71
- 片口安史 1974 新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究—. 金子書房 90-92
- 中植満美子 2007 スクィグル法による子どもの描画表現に見られる発達的特長とその変化に関する研究.
心理臨床学研究. 25(1) 37-48
- 村瀬嘉代子 1993 スクィグルの治療促進的内面過程 臨床描画研究Ⅶ. 35-50
- ウィニコット 1979 橋本雅雄訳 遊ぶことと現実 岩崎学術出版社1979 (Winnicott D.W. 1971 Playing
and Reality Tavistock Publication Lt., London)